



陣羽織（背面） 池田慶政所用 林原美術館蔵

2025 IKEDAKEBUNKO EZUTEN

Ikeda family during the Meiji Restoration



岡山大学図書館
Okayama University Libraries



岡山シティミュージアム



林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART



武州忍城郭之図

幕末維新期の池田家

令和7年度企画展 池田家文庫絵図展

令和7年度
企画展

池田家文庫絵図展

幕末維新期の池田家

Ikeda family during the Meiji Restoration

- 会 期 令和7年10月4日(土)～11月3日(月・祝)
- 会 場 岡山シティミュージアム 4階企画展示室
- 主 催 岡山大学図書館・岡山シティミュージアム
- 共 催 林原美術館
- 後 援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

池田家文庫は、岡山大学図書館が所蔵する、江戸時代の岡山藩の藩政資料約 68,000 点を中心とした資料群です。昭和 20 年（1945）の岡山空襲を免れ、これまで大切に保管・研究・活用・公開されてきました。特に絵図類に関しては多種多様を極めています。

これらの貴重な資料を広く地域社会の皆様に公開し、親しみを抱いていただくことを目的に、岡山大学と岡山市は平成 17 年に文化事業協力協定を締結しました。以降は毎年、岡山シティミュージアムで「池田家文庫絵図展」を開催しており、今年で 21 回目を迎えます。

令和元年からは、林原美術館の収蔵品も加わり、岡山藩の貴重な文化財が一堂に会する機会となりました。

豊富な池田家文庫資料を紹介するにあたり、毎年テーマを変えて展示しています。

今回は、「幕末維新期の池田家」と題し、同時期における岡山藩と池田家の動向に焦点を当てます。岡山藩・岡山城下の変化を示す絵図をはじめ、幕末政局における岡山藩主の活動や他藩との関係を示す文書・書状などを公開します。

また、林原美術館の収蔵品からは、岡山藩 8 代藩主・池田慶政と、最後の藩主である 10 代章政にゆかりある貴重な資料を紹介します。

この池田家文庫絵図展を通じて、地域の歴史や文化に興味・関心を抱いていただくとともに、池田家文庫が地域共有の財産として皆様の心に残り、未来へ継承される歩みとなることを願っています。

2025 年 10 月 4 日

岡 山 大 学 図 書 館
館長 鶴 田 健 二
岡山シティミュージアム
館長 水 野 剛

関連行事

Event

オープニングトーク

日 時 令和7年10月4日(土) 午前10時10分～午前10時40分
場 所 岡山シティミュージアム 4階企画展示室
講 師 岡山大学 学術研究院社会文化科学学域 准教授 東野 将伸 氏

講演会「幕末の岡山藩主 池田茂政のアーカイブズ：移動する人と文書の軌跡」

日 時 令和7年10月26日(日) 午後2時～午後4時
場 所 岡山シティミュージアム 4階講義室
講 師 行田市郷土博物館 学芸員 澤村 怜薫 氏

凡例

Introductory

- 1 本図録は、岡山大学図書館と岡山シティミュージアムが令和7年10月4日(土)～11月3日(月・祝)の会期で開催する「企画展 池田家文庫絵図展『幕末維新期の池田家』」の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。岡山大学図書館所蔵の資料については、図版番号、資料名、頁数、年代、池田家文庫整理番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。原名のないものや原名が長文に及んでいるものについては内容に相当と思われる題名を選んで与え、〔 〕を付けて区別した。林原美術館収蔵の資料には、林1から始まる番号を付し、資料名、頁数、年代、林原美術館収蔵品番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。林1、2の写真は林原美術館の提供による。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学学術研究院社会文化科学学域准教授 東野将伸が執筆した。林1、2については林原美術館の提供による。本書の編集は岡山大学図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次

Contents

I	令和7年度 池田家文庫絵図展 「幕末維新期の池田家」解説	1
II	出展資料解説	3
III	出展資料目録	20
IV	池田家文庫絵図展・記念講演会等開催記録	21

はじめに

近世前期の岡山藩主池田光政から数えて8代目の藩主慶政以降、岡山藩も幕末政局に関わっていく。9代藩主には水戸藩主徳川斉昭の九男（後の池田茂政）を迎え、「国事周旋」（朝廷・幕府・諸藩間の連絡・調整）に積極的に取り組んでいく。その後、大政奉還などを契機として池田章政が10代藩主となり、岡山藩は戊辰戦争に官軍（明治政府）側として従軍する。同藩は藩論や政局における立ち位置を模索し続けたが、旧来からの所領を維持したまま明治維新を迎えることができた。

過去の池田家文庫貴重資料展・池田家文庫絵図展では、平成25年度の「開国と岡山藩」、同26年度の「岡山藩と明治維新」など、幕末維新期の岡山藩の動向を示す絵図や文書類を取り上げてきた。今年度の展示では、これらに加えて池田茂政の藩主就任に関わる文書・絵図類、明治初期の建白書や同時期の岡山城下の様子を示す絵図などを取り上げる。動乱期の緊迫感や人びとの試行錯誤の過程を、展示から感じ取っていただければ幸いである。

(1) 幕末維新期の岡山藩

嘉永6年（1853）にペリーが浦賀に来航した際、岡山藩は池田慶政が藩主を務めていた。慶政は開国に対して否定的な見解を示し、幕府からの下問に対しても尊攘方針を答えている。岡山藩は幕府から房総半島、ついで摂海（大坂湾）の防備を命じられ、幕府の海防体制を担っていく。これと並行して、同藩は西洋流砲術の導入などの兵制改革を進めた。最幕末期に結成された農兵隊は西宮の警衛や戊辰戦争に従軍し、同藩の軍事の一翼を担った。

幕末期の岡山藩において、「尊攘」はかなり共通する政治志向であった。これに加えて、藩内には西洋の知識や軍備を積極的に取り入れようとした人物や、「国事周旋」に奔走し、幕末期の藩政に重きをなした人物がみられた。牧野権六郎、森下立太郎、津田弘道など、彼らは従来の藩政首脳部と比べて軽輩であったが、その考えや行動によっても藩政の方向性が左右されるようになっていった。

文久3年（1863）に岡山藩主となった池田茂政は、中央政局において「国事周旋」に奔走していった。これと並行して、幕末期に政治的立場を大きく変化させる長州藩との連絡・周旋も行った。二度の長州征伐に対して、岡山藩は一貫して消極的な姿勢をとっていたが、やむを得ずある程度の軍事動員を行っている。第二次長州征伐と同時期の慶応2年（1866）4月、長州藩第二奇兵隊による浅尾陣屋・倉敷代官役所の襲撃が発生し、岡山藩も鎮圧のために出兵している。江戸幕府を中心とした支配秩序の揺らぎがみてとれ、これに加えて第二次長州征伐における幕府軍の撤退は、幕府権威の低下に一層の拍車をかけた。

慶応4年（1868、明治元年）以降、岡山藩は「勤王討幕」の旗幟を鮮明にし、同年正月に備中松山藩と姫路藩へ出兵のうえ、備中松山城を接収している。この時、播磨国の諸領主からの願書も受け取っていたようであり、山陽筋の鎮撫に大きく貢献している。これとほぼ同時期には列国との間で神戸事件が発生し、岡山藩士瀧善三郎が割腹することで事態の収束が図られた。その後、岡山藩兵は官軍側として戊辰戦争に従軍し、明治2年（1869）6月の箱館戦争終結まで戦い続けた。

(2) 池田茂政と絵図・文書

池田茂政は水戸藩主徳川斉昭の九男として生まれ、後の鳥取藩主池田慶徳や15代将軍徳川慶喜は兄にあたる。嘉永元年（1848）に忍藩主松平忠国の継嗣となったが、安政6年（1859）に廃嫡となって水戸藩に戻った。文久2年（1862）に岡山藩主慶政の継嗣となって池田茂政と名を改め、藩主に就いた。この養子入りには岡山藩内での尊攘論の高まりや、左大臣一条忠香の政治的思惑があったことが明らかにされている。

茂政は筆まめな人物であつたらしく、忍藩継嗣時代には同藩政に関わる調査や文書の筆写を行っていた形跡がみられる。これらの文書や絵図を忍藩から持ち出し、また水戸藩に戻ってきた時期に

作成した文書などと合わせて、岡山藩へ持参している。「武州忍城郭之図」や『〔忍藩漫録〕』などがこれにあたり、これらの茂政に付随して移動した文書類は「池田茂政関係史料群」と称され、現在研究が進んでいる。池田家文庫は多様な情報を含み込んだ史料群であり、他藩・他地域の研究においても利用可能であることが示されつつある。

茂政は朝意のもとに幕府が攘夷を実行するといった、公武合体による国家運営を志向しており、その立場は「尊攘翼覇」とも評価されている。この方針のもと、幕末期に「国事周旋」に注力したが、幕府の攘夷方針の転換や倒幕の機運の高まりに伴い、その活躍の場や藩内での政治基盤を失っていく。そして、慶応4年（1868）3月に茂政は病気を名目として隠居する。鴨方藩主であった池田章政が藩主に就き、岡山藩は「勤王討幕」の方針に転換した。

「池田茂政関係史料群」からは、大名個人に属する文書群（個人付史料群）の性格や文書の作成・伝来過程について考察でき、近世史料論の題材としても大きな意義を有する。それとともに、最幕末期の政治的変動に翻弄されつつも、その場その場での自身のあるべき行動を模索する、茂政の真摯な姿勢も垣間見られるように思われる。

(3) 明治維新と池田家

箱館戦争の最中の明治2年（1869）正月、長州・薩摩・土佐・肥前の4藩から版籍奉還の建白が出され、翌月には岡山藩も同内容の建白を行った。版籍奉還により、藩主は知藩事に任じられ、基本的に旧所領をそのまま統治することとなった。同年6月には箱館戦争が終結し、明治政府のもと、様々な改革が行われていった。

岡山藩においても藩政改革がたびたび行われ、「衆議」政治を目指した議院（議事院）の設置や、士族間の身分上下を撤廃する規定などが出された。旧来の身分的な上下ではなく、より広く意見や人材を求め、藩の方向性を定める体制へと転換していった。

明治4年（1871）7月の廃藩置県は地域に大きな影響を及ぼし、旧藩主引き留めの訴願が各地で発生した。池田家の家中においても、同年中に減員・免職などの措置がなされた史料が現存している。池田家が支配の担い手ではなくなったことにより、家臣団の解体や家政機構の改変を迫られたのである。廃藩置県以降、明治期の旧岡山藩士や池田家は様々な事業に取り組んでおり、華族同士が協調して政治活動に取り組む場面もみられた。

岡山城の敷地は、明治期以降には官公庁や学校として利用された。池田家文庫には近代の岡山城や城下の変化を示す絵図・文書類も残存しており、明治23年（1890）には西の丸の敷地に第三高等学校医学部の校舎が建設された。現代にいたるまで、旧岡山城の敷地が岡山市・岡山県の中心地の1つとして機能していることは周知の事柄である。

幕末維新时期を生き抜いた慶政・茂政・章政の旧岡山藩主三名は、いずれも明治中後期まで存命であった。彼らの目には明治期の日本や岡山がどのように映っており、自らの足跡をいかに捉えていたのだろうか。

岡山大学学術研究院社会文化科学学域 准教授 東野将伸

〔参考文献〕

- 岡山大学附属図書館編集・発行『岡山大学所蔵 池田家文庫総目録』（1970年）
 笠谷和比古『近世武家文書の研究』（法政大学出版局、1998年）
 河田章『明治期の旧藩主と士族経営』（吉備人出版、2022年）
 北村章「幕末岡山藩の政治過程について」（『岡山県史研究』5、1983年）
 行田市郷土博物館編集・発行『第33回テーマ展 描かれた忍城』（2023年）
 澤村怜薫「忍藩主松平下総守家の藩政と家意識」（『関東近世史研究』84、2019年）
 谷口澄夫『岡山藩政史の研究』（塙書房、1964年）、同『岡山藩』（吉川弘文館、1964年）
 東京大学史料編纂所編纂・発行『大日本維新史料類纂之部 松平昭休往復書翰留一』（東京大学出版会発売、2024年）
 中野美智子「岡山藩政史料の存在形態と文書管理」（『吉備地方文化研究』5、1993年）
 岡山県史編纂委員会編『岡山県史』第六巻近世Ⅰ、第七巻近世Ⅱ、第八巻近世Ⅲ、第九巻近世Ⅳ、第十巻近代Ⅰ（岡山県、1984～1989年）
 岡山県歴史人物事典編纂委員会編『岡山県歴史人物事典』（山陽新聞社、1994年）
 国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』全15巻（吉川弘文館、1979年～1997年）

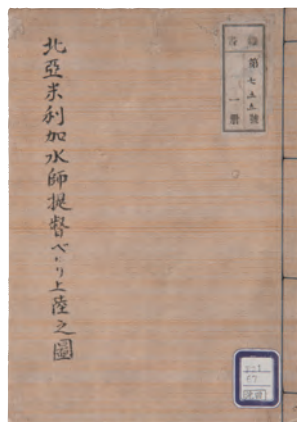
※本展示の実施と解説の執筆にあたり、東京大学史料編纂所一般共同研究（2024年度「池田茂政関係史料群」の形成過程の解明と研究資源化」、2025年度「池田茂政関係史料群」および関連資料の伝来過程の解明と学術資源化」、ともに東野将伸が研究代表者）の成果の一部を用いた。また、政次加奈子氏より貴重な助言を得た。関係各位に記して御礼申し上げたい。

【幕末維新期の岡山藩】

1 北亜米利加水師提督ベルリ上陸之図

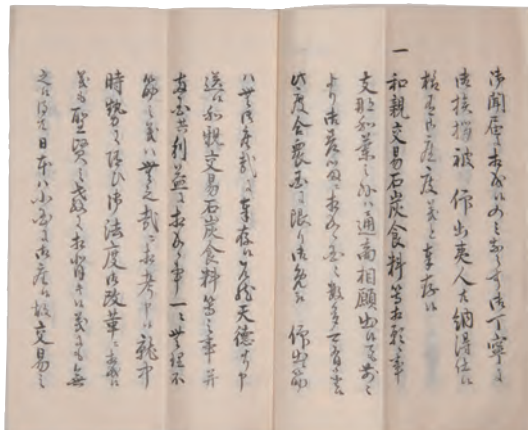
縦1冊 (未詳)
P21-67 19.0 × 13.4

「水師提督ベルリ」以下「副将」「隊長」「楽童子」「伍長」「戦士」「楽師」「ケペール組」「黒人」などの図像が描かれている。巻末には「亜美利加ヨリ献貢物目録」が記されている。



2 御書上之写

縦1冊 嘉永6年(1853)8月10日
S1-45-1 26.1 × 19.4

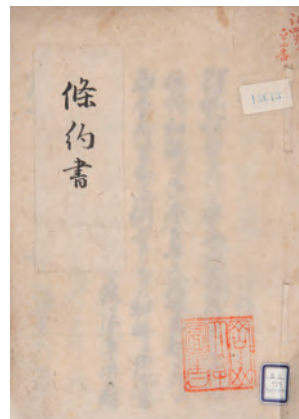


幕府からペリー来航への対応について下問を受け、岡山藩主池田慶政が提出した書上の写しである。展示箇所にもみられる通り、旧例をもとにした攘夷方針を述べており、アメリカをはじめとする諸国との交易に否定的な見解を示している。一方で、漂流民の保護の要請については了承すべき旨が前条で述べられている。

3 條約書

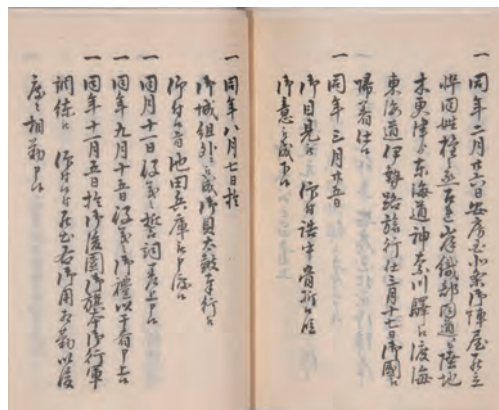
縦1冊 安政元年(1854)
S4-315 26.8 × 19.1

池田家文庫には、外国と締結した条約書の和解(翻訳)の写しが複数残存している。本史料は安政元年(1854)12月にアメリカ・イギリス・ロシアと結ばれた条約のそれぞれを写したものであり、展示箇所は日露和親条約の冒頭部分である。第二条以下では、日本・ロシア間の国境の策定、箱館・下田・長崎の開港などが規定されている。



4 〔牧野権六郎奉公書〕

縦1冊 明治3年（1870）12月29日
D3-2423 28.4 × 20.7



著者の牧野権六郎（権之丞から改名）の父が、幕末維新期の岡山藩政に大きく貢献した牧野権六郎（孝三郎を改名、1819～1869）である。後者の牧野権六郎は、安政元年（1854）4月より安房国（現在の千葉県）北條陣屋に詰め、岡山藩の房総警衛に従事していた。その後、安政2年（1855）8月7日に貝太鼓奉行に任じられ（展示箇所）、岡山藩の軍制の整備や調練に取り組む。慶応3年（1867）10月には、京都において將軍慶喜に謁見し、大政奉還の速やかな執行を具申している。明治初期まで一貫して岡山藩政において重きをなしたが、明治2年（1869）6月28日に病死している。



5 上総国竹ヶ岡御台場之図

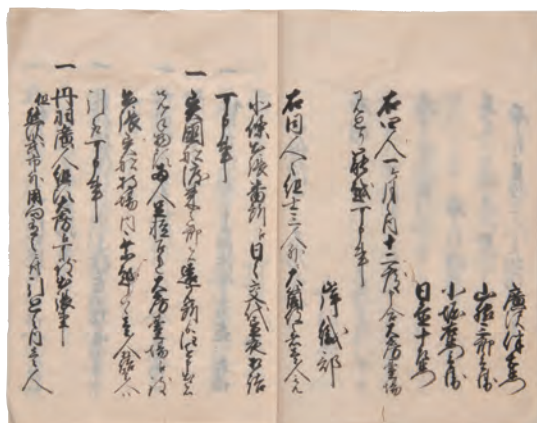
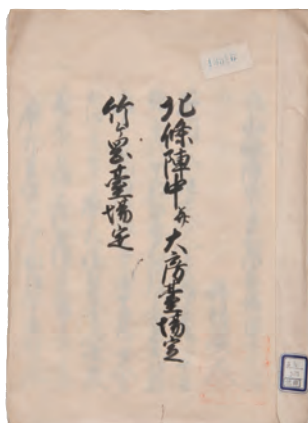
1枚（未詳）
H6-20-4 54.0 × 78.6

岡山藩は嘉永6年（1853）11月に柳川藩と相役で安房・上総両国の海岸防備を命じられた。本図は前任の会津藩から引き継いだものと思われ、竹ヶ岡台場（上総国）とその周辺地形が描かれている。建物や防御設備に比して、山・海などの地形は絵画的な表現である。

6 北條陣中并大房台場定 竹ヶ岡台場定

縦1冊（未詳）
S4-321 28.0 × 20.3

安房国の北條・大房の両台場、上総国の竹ヶ岡台場のそれぞれについて、人員や異国船渡来時の対応方法などが記されている。展示箇所からは、北條・大房における昼夜を問わない監視や、高所にあったとみられる遠見所を起点とした注進体制などが読み取れる。



7 大坂天満陣中定

縦1冊（未詳）
S4-304 27.8 × 20.0

安政5年（1858）6月、岡山藩は摂海警衛（大坂湾防備）を命じられた。当初は中之島・天満の同藩蔵屋敷を駐屯の拠点としていたが、文久元年（1861）6月に西成郡川崎村に地所を与えられ、陣屋を構えた。本史料は、警衛開始当初において、天満蔵屋敷での異国船対応や人員について定めたものとみられる。



8 池田家履歴略記 三編 五（池田家履歴略記続集巻之五）

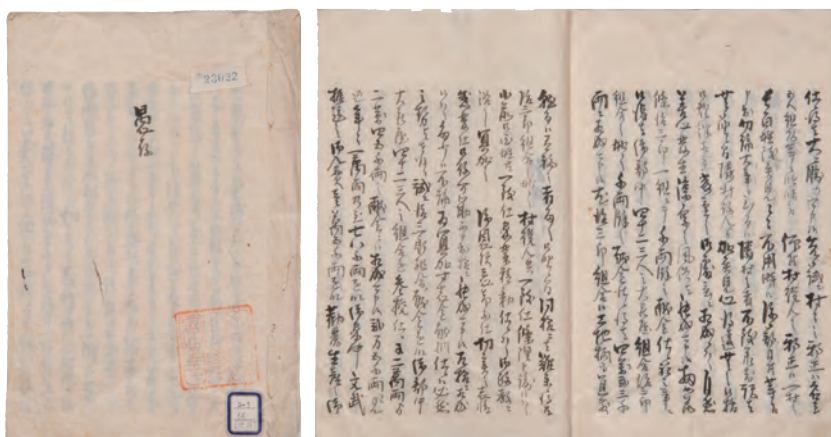
縦1冊（嘉永6〈1853〉～文久3年〈1863〉）
A8-40 23.5 × 16.6

『池田家履歴略記』は岡山藩士によって編纂されており、池田家の通史というべきものである。『池田家履歴略記続集 後編』は、岡山藩士牧野成憲の編纂によるものである。展示箇所では、安政元年（1854）の岡山藩札の札潰れについて記されている。この札潰れでは、岡山藩札の価値が10分の1となり、地域経済に大きな混乱が生じた。安房・上総両国の海岸防備等による藩財政の窮迫も、このような状況の大きな要因であったとされている。



9 愚存

縦1冊（慶応2年〈1866〉）2月
S3-66 24.6 × 16.7



岡山藩士の森下立太郎（1824～1891）から牧野権六郎（展示史料4参照）に宛てた藩財政改善のための献策を記したものである。地域の有力者から献金を得て、この資金の活用による財政補填や「文武興隆」、「庶民快楽」、「政教洋溢」が目指されていた。森下の献策に沿って、地域の有力者を主要な運営主体として、財政改善のための様々な施策を行う「御融通方」が設置されることになる。

10 〔長州征伐攻防略図〕

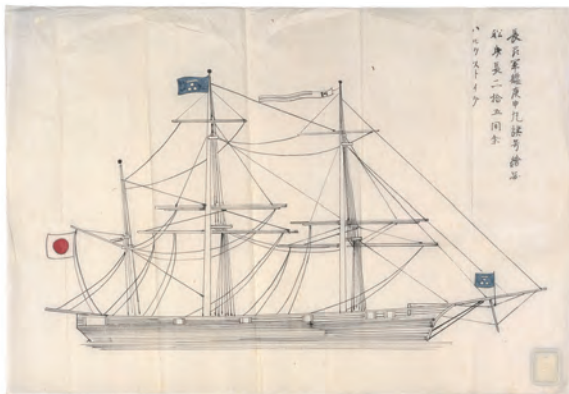
1 枚（未詳）
S1-241-2 27.9 × 49.7

慶応2年（1866）6月7日、幕府軍の周防大島攻撃をもって、第二次長州征伐が開始された。本絵図は芸州口、石州口での戦闘について、簡略に描いたものである。小書きの日付は、6月13日から25日までがみられる。類似の絵図として、S1-241-4 がある。



11 長州軍艦庚申丸旗号絵図

1 枚（未詳）
T8-64-6 28.0 × 41.0



幕末期の長州藩で建造された軍艦庚申丸を描いた図。「船身長」は25間余（45メートル強）とあり、長州藩の家紋を記した旗が掲げられている。池田家文庫には長州藩の軍艦である壬戌丸（T8-64-5）、癸亥丸（T8-64-7）の絵図も現存しており、長州藩の軍艦整備の様相がうかがえる。

12 〔芸州口戦闘図〕

1 枚（未詳）
S1-241-6 66.9 × 49.7

慶応2年（1866）の第二次長州征伐での芸州口での戦闘を描いた図である。小書きの日付は、6月6日から14日までがみられる。長州軍は全体として有利に戦いを進め、将軍家茂の死去を契機として、幕府軍は停戦・撤退することとなった。



13 備中国巡覧大絵図

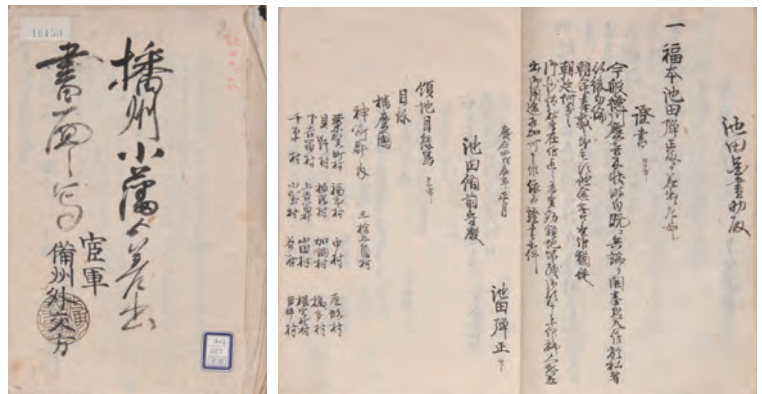
1 鋪 嘉永7年（1854）2月
T1-22 134.0 × 87.4

備中倉敷東本町太田屋六蔵・大坂心齋橋通北久太良町河内屋喜兵衛・同所河内屋儀助が刊行した備中国絵図であり、幕末期に広く流通した。T1-22・23・24・27の合計4点が「備中国巡覧大絵図」であるが、T1-24のみ墨一色摺りで残る3点は彩色である。本絵図の付紙に「御領々色別」とあり、各領知の印が記されている。これらの中には「高粱藩知事殿」や「天領」などの用語がみられ、明治2年（1869）の版籍奉還から同4年の廃藩置県までの時期の付紙であることがわかる。岡山藩の備中鎮撫やその後の行政にあたり利用されたものとみられる。

14 播州小藩の差出書面之写

縦1冊（慶応4年〈1868〉正月～2月）
S4-227 25.1 × 17.2

岡山藩は姫路出兵に加わっているが、その際に播磨国の複数の領主から朝命に従う旨の文書が岡山藩へ提出された。展示箇所は、旗本の福本池田家（播磨国）が、岡山藩に対して差し出した「証書」の写しである。同家は朝命を奉戴するものであり、命令があるまで従来からの領知を岡山藩へ預ける旨が述べられており、領知村々の目録も記されている。また、表紙から岡山藩の外交方が作成した文書であることがわかるが、肩書に「官軍」（官軍）と記されている点も興味深い。



15 〔感状〕

1通 明治元年（1868）10月
S4-360-1 40.5 × 56.4

明治元年（1868）9月の会津若松城攻撃にあたり、岡山藩兵の数十日にわたる尽力を称えた感状である。白河口総督の正親町公董（おおぎまち きんただ）から備前藩隊長中に対して出されている。



16 〔津田彦二郎奉公書〕

縦1冊 明治2年（1869）12月晦日
D3-1636 28.0 × 20.4

幕末維新期の岡山藩士・明治期の実業家などとして著名な津田弘道（1834～1887）の奉公書である。展示箇所は、戊辰戦争における東北地方での戦いが終結した明治元年（1868）10月以降に、津田をはじめとする藩士が「鎮壓（圧）」のため会津・白河への出張を命じられた際の記述である。



17 蝦夷闊境輿地全図

1枚 嘉永7年（1854）
T10-26 123.0 × 99.7

藤田良（惇斎）が作成した木版多色刷り大判の北辺図。19世紀初頭に幕府が作成した蝦夷地測量図を基にしているが、山々を絵画的に描くなど鑑賞と実用を兼ねた絵図である。経緯線を方眼に引くが、正確なものではない。藤田の識語は嘉永6年（1853）10月で「日露和親条約」締結以前。発行は江戸日本橋通十軒店の書物問屋播磨屋勝五郎。



18 〔奥州・箱館絵図〕

1 枚（未詳）
T9-39-1 59.6 × 96.1

林子平『三国通覧図説』（天明5年〈1785〉刊）の付図を写したものとみられる。同様の絵図としてT10-39がある。「マンチチウ」（満州）、「カラフト」などの地名もみられるが、地形や面積は現実の地理とかけ離れたものになっている。T9-39の袋に同封されていたT9-39-3が戊辰戦争時の図であり、本絵図も戊辰戦争時においてある程度は参照されたのであろう。



19 五月十一日総攻撃略図

1 枚（明治2年〈1869〉）
T12-21-4 27.7 × 77.5

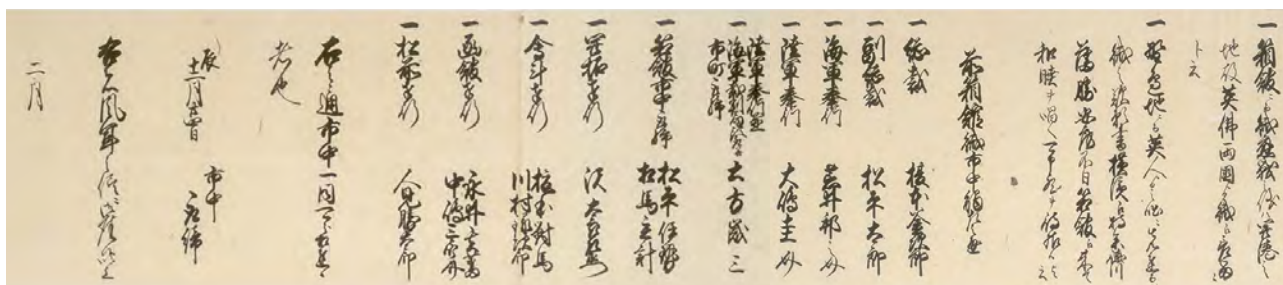
明治2年（1869）5月11日の海陸での箱館総攻撃の様子を描いた図である。朱丸で「備」とあるのが、岡山藩兵の位置を示している。官軍側の艦船「陽春丸」には岡山藩兵（「我兵」）が20名乗り込んでいることが記されている。



20 賊地風聞之俣

1 通（明治2年〈1869〉）2月
T9-39-4 16.2 × 210.8

箱館戦争の本格的な戦闘に先立ち、官軍側が箱館周辺の風聞を記した史料の写しとみられる。岡山藩兵も従軍していたため、池田家文庫に本史料が伝来したのであろう。「賊軍」の人数が4000名ほどであることや、「賊軍」側の主な人物・防備の様子などが記されている。展示箇所では、和睦のための勝安房（海舟）の来訪が期待されている様子や、箱館市中に触れられた「賊軍」側の役職などが記されており、総裁榎本釜次郎（武揚）、陸軍奉行並等土方歳三などの名前がみられる。

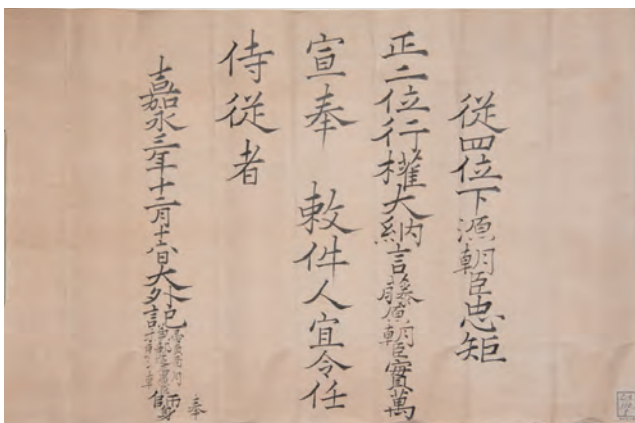


【池田茂政と絵図・文書】

21 〔宣旨〕

1 通 嘉永3年(1850)12月16日
C4-110-5 36.6 × 56.8

松平忠矩(ただのり、後の池田茂政、1839～1899)を従四位下侍従に任ずる宣旨である。忠矩は徳川斉昭(水戸徳川家)の九男であり、幼名は九郎麿であった。嘉永3年(1850)時点では忍藩(武蔵国)の継嗣となっていた。忠矩がその後水戸藩・岡山藩へ移るにあたり、同人とともに持ち出され、池田家文庫に伝存したものとみられる。



22 茂政公系図

1 枚 (未詳)
C1-92 49.3 × 65.5

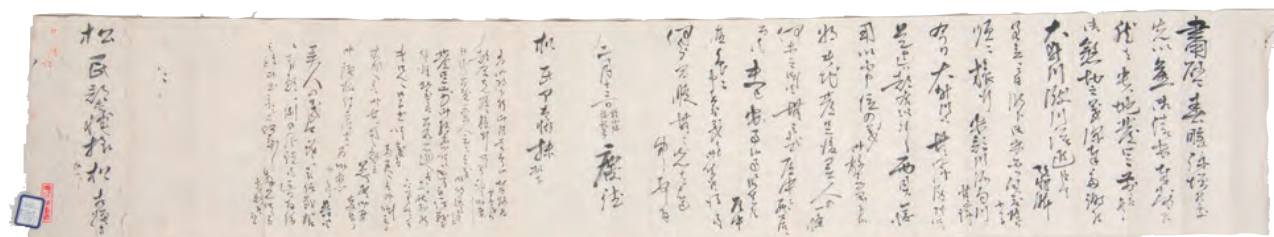
水戸藩第7代藩主徳川治紀(1773～1816)から始まり、18世紀末以降の水戸徳川家やその子孫の系譜が円形に記されている。下部の外周付近には岡山藩主の池田茂政や鳥取藩主の池田慶徳、15代将軍徳川慶喜などの名前がみられる。幕末期において多方面に広がり、政局の上でも重要な役割を果たしたとみられる水戸徳川家の系譜を知ることができる。



23 〔松民部大輔宛松相模守書状〕

1 通 (安政元年(1854)カ)2月13日
C8-370-7 17.6 × 96.8

2月13日付の書状であるが、松平民部大輔宛となっていることから、忠矩(池田茂政)が忍藩世嗣となっている時期のものである。差出人の相模守は鳥取藩主の池田慶徳(よしのり、1837～1877)であり、忠矩の実兄にあたる。尚々書も含めて、「異人の一条」についての情報を知らせてほしい旨がたびたび述べられていることから、安政元年(1854)1月16日のペリー再来航直後のものである可能性が高い。参勤交代とみられる移動の途上に出された書状であり、忠矩と慶徳との関係の親密さに加えて、「異人」の件に対する慶徳の関心の深さがうかがえる。



24 武州忍城郭之図

1 枚（嘉永期カ〈1848～1853〉） T3-4 161.6 × 158.0

松平九郎麿（松平忠矩、後の池田茂政）が岡山藩継嗣となった際、同藩に持ち込まれた絵図・文書のうちの1点である。青色が水、うすだいたい色が武家地、朱色が寺院、赤色が神社、桃色が町家を指すとみられる。忍城は忍川が流れ込む沼地に造成されており、張り巡らされた堀とも合わせて、水上の城といった趣をよく示している。城郭南西部にある「御宮」（東照宮）に隣接して「舞台」と「御花園」がみられ、また城郭西部には「西洋流稽古場」も確認できる。この他、「町奉行屋敷」や「牢屋」といった藩政に関わる施設や各門の名称も記されており、全体として幕末期の忍城の様子をよく知ることができる。



25 忍城内略図

1 枚（嘉永期カ〈1848～1853〉） T3-60 40.2 × 81.6

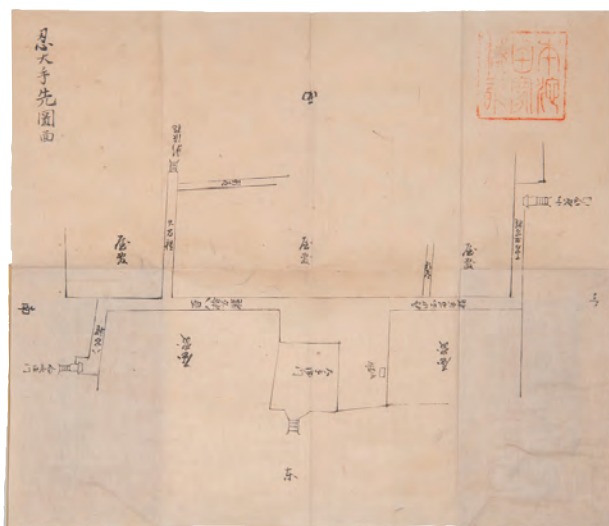
忍城の二ノ丸曲輪と二ノ丸御殿を描いており、城内建築物の絵図として唯一現存するものである。近世後期の状況を描いたものとみられる。「御寝所」、「湯殿」など、大名の生活空間としての性格をうかがわせる記述が複数みられる。二ノ丸御殿は、明治初期に一時的に忍県庁舎としても利用されている。



26 忍城大手前略図

1 枚（近世後期カ） T3-63 26.2 × 30.5

忍城東側の大手御門周辺を簡略に描いた絵図である。大手は城郭の正面にあたる。



27 御養子御隠居御家督一件 下帳

竪1冊 文久3年(1863)
C3-72 246 × 17.3

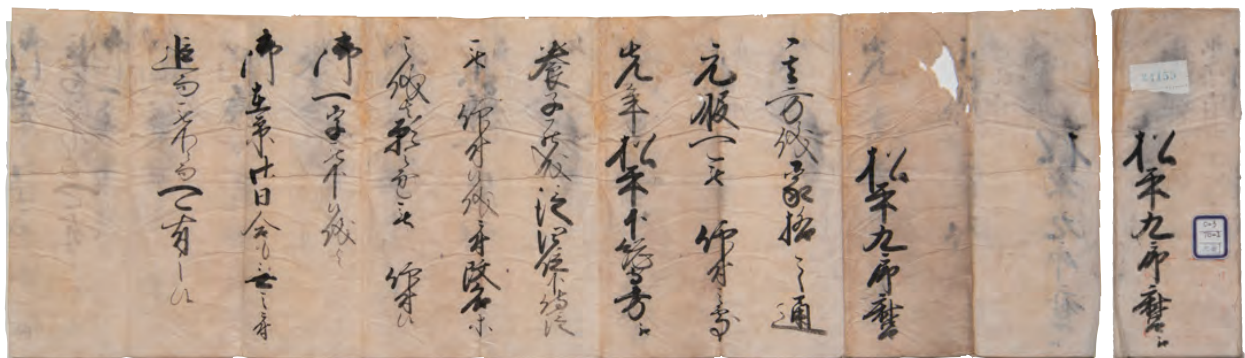
文久3年(1863)に松平九郎麿(松平忠矩、徳川斉昭九男)を岡山藩継嗣に迎えるに先立ち、岡山藩主池田慶政の隠居について、「御分家様」・「御末家様」との相談の場が持たれたことが記されている。隠居の理由として、慶政の掌中の痛みや、「痢鬱」、眩暈などの体調不良が記されている。これらに加えて、徳川斉昭の子息を継嗣に迎えることで、岡山藩の「尊攘」への意志を強く示すことが目指されたものとみられる。



28 〔達書〕

1通 (文久3年(1863)) C3-78-1 19.5 × 61.7

幕府より松平九郎麿(松平忠矩、徳川斉昭九男)に宛てて出された達書である。九郎麿を岡山藩継嗣に迎えるにあたり、改名等を願い出の通り許可する旨が記されている。後に14代将軍徳川家茂の偏諱を授かり、池田茂政と改名している。



29 御貫請御使者御取遣之御次第

横1冊 文久3年(1863) C3-82 14.2 × 41.0

松平忠矩(後の池田茂政)を岡山藩継嗣に迎えるにあたっての沿革や儀式次第などがまとめられた帳面である。展示箇所では、文久3年(1863)正月9日に、忠矩の養子入りに関して「御分家様」・「御末家様方」を相談のため招いたこと、「一條様」(左大臣一条忠香)へ相談の使者を送ったことが記されている。岡山藩内における尊攘の機運の高まりと、姻戚関係にあった一條忠香の後押しによって、忠矩を継嗣とすることが実現している。



30 〔水戸藩漫録〕

横半1冊 文政11～文久2年（1828～1862）
S6-728-(3) 8.4 × 18.8



31 〔忍藩漫録〕

横半1冊 文化6～安政6年（1809～1859）
S6-728-(2) 8.3 × 19.0



32 〔幕末漫録〕

横半1冊 元治2～慶応2年（1865～1866）
S6-728-(1) 8.8 × 19.9

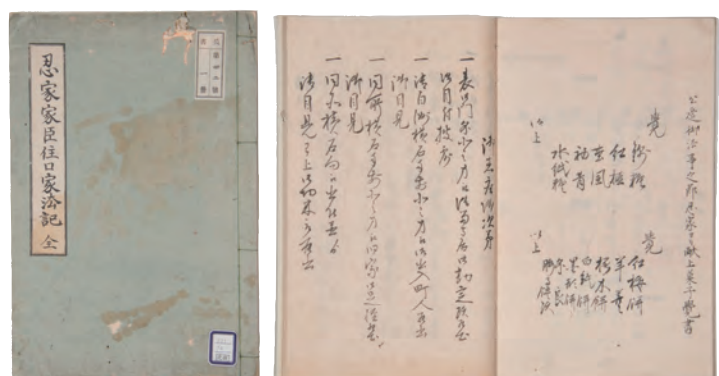


池田茂政が記した漫録であり、それぞれの標題に関する内容が記されている。特に30・31には、書付の写しや儀式関係の記述、藩内での格式等といった、水戸藩・忍藩の内部情報が詳細に記されている。30の展示箇所右頁には「昭休」（松平昭休〈忠矩〉、後の池田茂政）の署名と花押が記され、31の展示箇所左頁には松平忠矩が忍藩継嗣を廃嫡となり、水戸藩へと戻る際の記録が記されている。茂政が各藩において、多様な情報をこれらの冊子に筆写・記録し、岡山藩への養子入りに伴って持参したものである。

33 忍家家臣住口家法記全

縦1冊（未詳）
P21-34 27.4 × 18.4

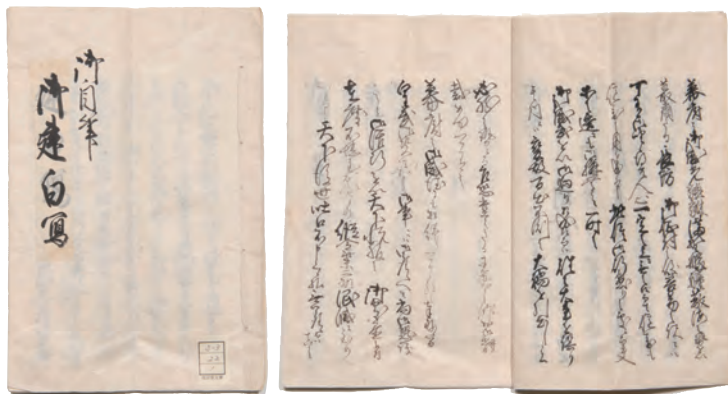
31と同様に、忍藩内部の情報や規定を記した冊子である。忍藩士の出身地、儀式時の着座順についての規定などが記されている。



34 御自筆御建白写

縦1冊（慶応2年〈1866〉）6月23日
S3-22-1 24.4 × 16.3

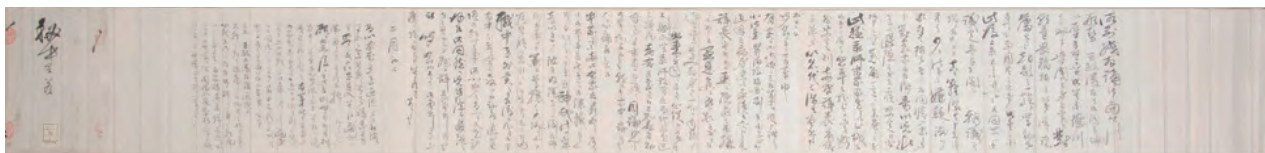
第二次長州征伐開始後、岡山藩主池田茂政が幕府に提出した建白書。幕府の処置には一貫した条理がないと出兵に消極的な態度を弁明している。展示箇所では、長州藩の征伐が容易であったとしても、これによって「不測之大禍」が生じることは「必然之勢」であるなど述べられており、茂政の考えをうかがうことができる。



35 〔因州公御書翰〕

1通（明治元年〈1868〉）2月2日 S1-90-1 17.6 × 153.6

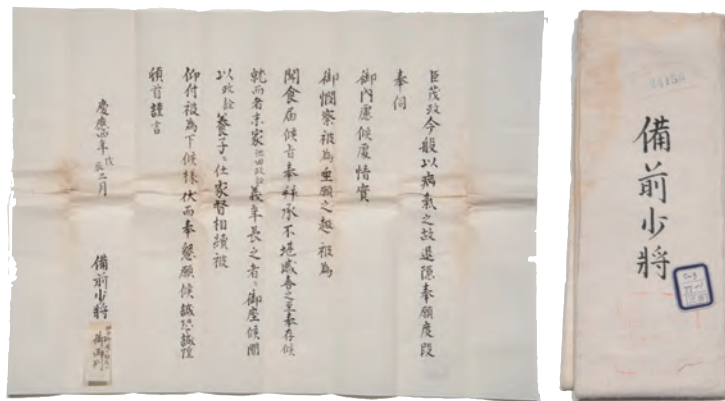
鳥取藩主池田慶徳から池田茂政に送られた書翰とみられ、鳥羽・伏見の戦いの後に出されている。「徳川之一儀者骨肉之身上、実ニ対朝廷（延）畏縮極り候」とある通り、慶徳・茂政の兄でもある徳川慶喜の行動や朝敵とされたことについて、苦慮している様子がうかがえる。慶徳は京都において朝議に参加することの苦労や辞職の意向を示している。「追々御退隠御願可被成御心決之旨、一々御尤の御事」とあり、茂政の隠居の意向についても理解を示している。池田家文庫に複数現存する慶徳からの書状によって、慶徳・茂政兄弟の関係性や、幕末維新期における藩主同士の情報交換の様相を詳しく知ることができる。



36 〔願書〕

1通 慶応4年（1868）3月
C3-77-1 39.2 × 53.5

池田茂政（備前少将）の隠居願いの写しであり、鴨方藩主の池田政詮（1836～1903、後に章政と改名）が養子となって家督を相続することが願われている。



37 御願書写

1通（慶応4年〈1868〉）2月 C3-77-3 16.1 × 252.5

36と同様、池田茂政の隠居と池田政詮への家督相続が願われているが、本史料はより詳細に隠居の理由や將軍慶喜・朝廷への認識が記されている。茂政が病気のため朝廷に尽くすことができないことを一貫して詫げる内容となっている。



【明治維新と池田家】

38 〔池田慶政写真〕

1 枚（明治期） C13-392-3 16.5 × 10.8

岡山藩第8代藩主池田慶政（1823～1893）の写真である。本写真は明治期に撮影されたものとみられる。



39 〔池田章政写真〕

1 枚（明治期） C13-392-3 16.3 × 10.5

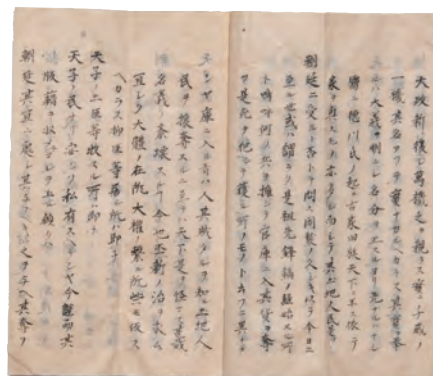
岡山藩第10代藩主池田章政（1836～1903）の写真である。本写真は明治期に撮影されたものとみられる。



40 〔明治二年版籍奉還四藩建白写〕

縦1冊（明治2年〈1869〉正月20日）
S3-8-(1) 24.5 × 16.2

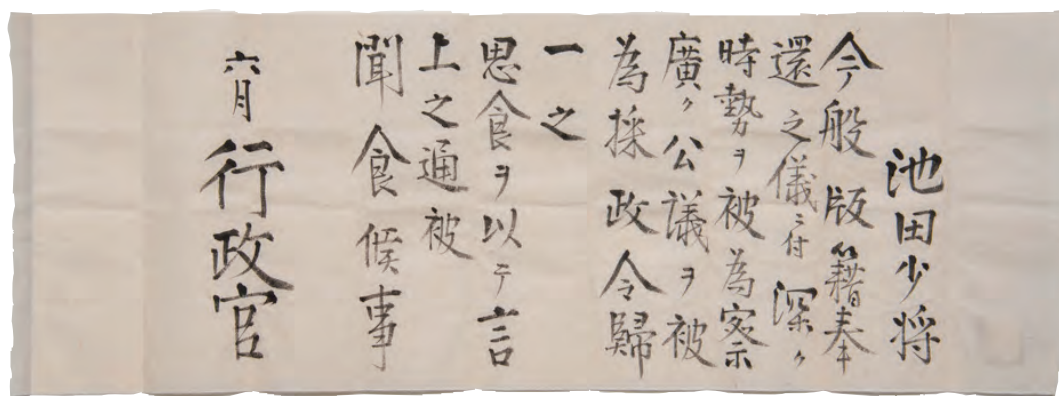
長州・薩摩・土佐・肥前の4藩より提出された版籍奉還の建白の写し。封土（版）と領民（籍）を藩主から天皇に返上する内容となっており、展示箇所の後半部には「今謹而其 版籍ヲ収メテコレヲ上ル」とある。



41 〔版籍奉還につき行政官達書写〕

1 通 明治2年（1869）6月 S6-865-(1) 17.6 × 49.1

岡山藩主池田章政は、薩長土肥4藩の建白の翌月に版籍奉還を申し出た。本史料はこの申し出を認める行政官の文書の写しである。同年同月付の「〔藩知事任命書写〕」などとともに包紙に入れられている。



42 岡山藩議事院規則

豎1冊 明治3年(1870)4月
S5-280 23.6 × 16.2

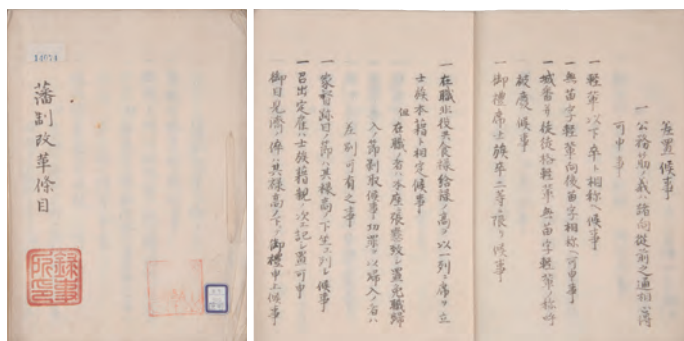
岡山藩では明治2年(1869)以降、衆議政治の実施が目指され、展示箇所を通り、明治3年(1870)4月に「広ク衆議ヲ採択シ藩治ヲ補翼」することを目指した議院(議事院)が開設された。議院では、藩士に加えて、各郡人民の代表1名が議長として参加し、財政・治安など多様な問題が議論された。



43 藩制改革條目

豎1冊 明治3年(1870)10月 S5-300 28.0 × 20.5

明治初期にたびたび行われた藩政改革のうち、最後のまとまった改革の内容を示すものである。従来からの家臣団の格制を改めることが主眼となっており、等級や格制を廃止することが冒頭に記されている。徒格以上の者を「士族」、輕輩以下の者を「卒」とそれぞれ位置づけ、禄制や士族・卒の列次についての規定を定めている。士族間の「上下差別」を撤廃し、「礼節同等」になったことで、森下立太郎や香川英五郎といった有能な下士が重職に任じられている。



44 留帳 上

豎1冊 明治4年(1871) A1-382 28.0 × 19.5

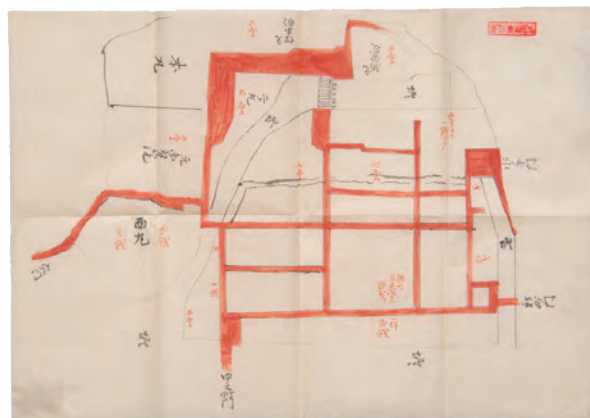
「留帳」は岡山藩政の諸事項が書き留められた帳簿である。明治4年(1871)の「留帳」には、岡山藩が廃藩となった旨が記されている。同年7月14日に廃藩置県が命じられたことを受け、7月24日に「惣触」にて岡山藩家中へ「藩を廃し県を被置候事」が伝えられている。展示箇所続く文章では、廃藩にあたり「浮説・流言」に惑わないようにと命じられており、藩内に大きな動揺が生じるであろうことが想定されていた。



45 〔岡山城郭内ノ図〕

1枚 (明治中期) T3-348-6 27.8 × 40.0

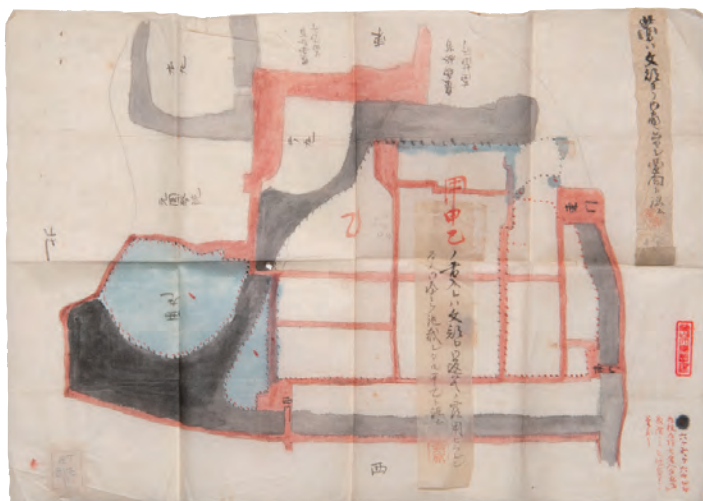
岡山城の本丸・西の丸・二の丸の各区画の略図である。朱書で各地域の坪単価が記されている。T3-348-1～11は袋にまとめられており、袋上書には「城地図面、明治廿三年五月已降」と記されている。明治21年(1888)4月には第三高等中学校医学部が開校し、同23年1月に西の丸の敷地に同校の校舎が建設された。T3-348の他の絵図から、校舎建設用地の選定や設計にあたって作成された絵図類の1つとみられる。



46 〔岡山城郭内ノ図〕

1 枚（明治中期） T3-348-7 27.6 × 39.4

展示番号 45 と同様に、明治中期の岡山城本丸・西の丸・二の丸の各区画の略図である。「此図ハ文部ヨリ御家へ出セシ図面ト認ム」等の付紙があり、学校（第三高等中学校医学部）用地としての利用のため、池田家と文部省が折衝を行っていたことがうかがえる。



47 備前国岡山内山下并後楽園旧全図

1 枚（明治9年〈1876〉2月） T7-48 102.4 × 154.9



明治9年（1876）2月に岡山城および後楽園を描いた絵図とみられるが、描かれている内容にはこれ以前の事柄も含まれている。付紙には「文部省」の語句がみられ、「廿二年十月四日東京へ通報候事」とあることから、45・46と同様に学校（第三高等中学校医学部）用地の調査の際にも利用されたものとみられる。「議事院」など、明治初期の限られた時期にのみ存在した機関や、「洋学所出張語学所」、「常備兵团」、「生坂知事殿西屋敷」など、明治初期・前期における旧城郭敷地の利用状況がうかがえる。

48 御本新屋敷御殿向地絵図

1 枚（明治2年〈1869〉カ） T5-45 117.8 × 166.5

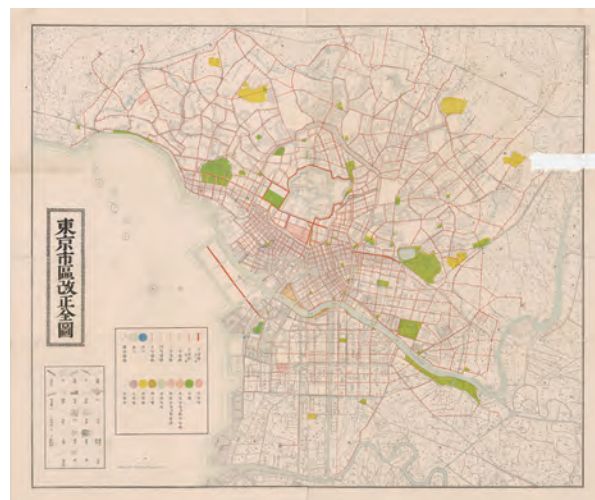


絵図が入っていた袋の上書には、「東京辰之口」の屋敷であり、明治元年（1868）冬に拝領し、同2年正月15日に移徙したことが記されている。本屋敷とほぼ同じ箇所にあった屋敷とみられ、詳細は不明だが、少なくとも明治初期に岡山藩屋敷として利用されたことは確かであろう。

49 東京市区改正全図

1枚 明治23年(1890)3月10日
T9-58 70.2 × 93.3

官報第2005号附録の地図である。東京市の各地に町名が記され、土地の利用状況が色分けされ、道路の規模も書き分けがなされている。江戸時代の地図では特に江戸城付近に多くの大名屋敷が記されているが、本図では大名の名前ではなく町名が記されるようになっている。



50 明治八乙亥年再度建白三大臣へ差出候写

縦1冊 明治8年(1875)9月6日 S3-11 24.5 × 16.5

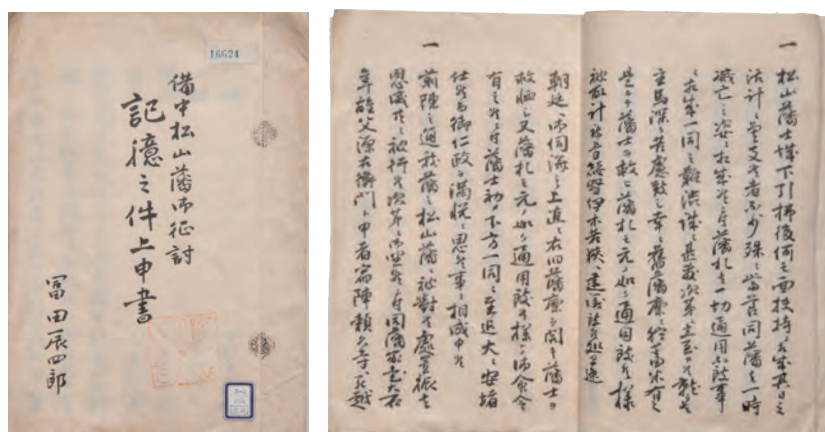


池田慶徳、池田茂政などの華族8名から太政大臣・左大臣・右大臣へ提出された建白の写しである。「全国輸出入之大計」に着手すること、「民心安着」に取り組むべきことなどが建白され、佐賀の乱や台湾出兵などでの政府の対応を批判している。末尾では、「内閣謀議御鄭重決テ忽卒遅緩ノ弊ヲ去、廟謨御一定ノ上御輕拳無之様」とある通り、政府の慎重な議論と速やかな対応を求めている。華族間および兄弟(池田慶徳・茂政)・親類といった、おそらくは幕末以来の関係性にも基づく政治的活動とみられる。

51 備中松山藩御征討記憶之件上申書

縦1冊 明治25年(1892)11月 S4-294 27.8 × 19.9

明治期には池田家の家史編纂事業が行われた。明治24～25年(1891～1892)にかけて、「御家史編纂掛」が設けられ、家史や幕末期の出兵記録が編纂されている。本史料もこの事業に関わって記述・提出されたものとみられる。備中松山藩の鎮撫の様子やその後の備中松山城下の人々の動向が、著者の感想も織り交ぜつつ記されている。



52 修史草按卷第一

豎1冊（明治中期） A7-52 24.6 × 17.7



修史草按・史料草按は幕末維新期の岡山藩の政治活動を編纂した編年体の史料集成である。明治中期、池田家が家史編纂事業の一環として制作した。嘉永6～慶応3年（1853～1867）の全20巻のもの（A7-2～21）に加えて、各種の草稿や往復書翰をまとめた冊子などが現存している。「留帳」とともに幕末期の藩政や池田家の動向を知る基本資料である。展示史料は嘉永6年（1853）6月～文久2年（1862）12月を範囲とする第一巻である。

53 史料草按引用書目録

豎1冊（明治中期） A7-43 24.7 × 16.8



修史草按・史料草按を編纂するうえで引用した文書がまとめられた目録であり、根拠史料に基づいた家史編纂が行われていたことがわかる。「芸州口戦地之図」（展示番号12）など、出展史料と同じとみられる文書も複数みられる。

【林原美術館出展資料】

林 1 陣羽織 池田慶政所用

一領 江戸時代

時代衣装 88-2

身丈 100.1cm、身幅 63.5cm、襟丈 50.5cm、襟幅 7.5cm

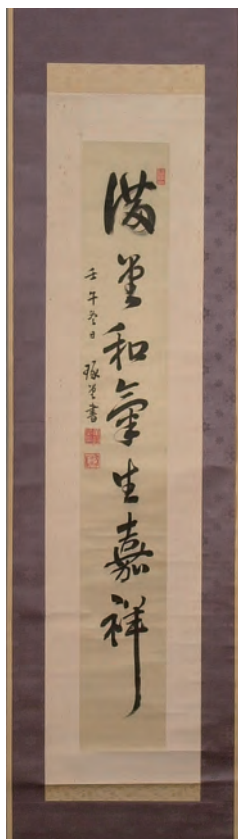


(前面)



(背面)

ビロード地の豪華な仕立ての陣羽織。背面には鮮やかな藤の花をあらわし、羽先と足のような箇所をクルリと丸くした池田家の家紋「輪蝶紋」を配す。池田慶政（1823～1893）は中津藩主の奥平昌高の四男で、天保13年（1842）に7代岡山藩主の池田斉敏の養子となり、同年8代藩主となった。嘉永6年（1853）に浦賀に黒船が来航した際には、房総半島の警備を命じられた。文久3年（1863）2月、病気を理由に婿養子の池田茂政に藩主を譲り、明治維新後は閑谷神社の祀官をつとめた。



林 2 一行書「満堂和気生嘉祥」 池田章政筆

一幅 明治15年（1882）

書跡 124

総縦 198.7cm、横 43.5cm（本紙 縦 112.4cm、横 16.0cm）

「堂に満ちる和気は嘉祥を生ぜしむ」と書かれた一行書。和やかな空気が場に満たされると、めでたいことが生じるとされ、心の在り方を説く禅語である。「壬午冬日 琢堂書」との署名がある。

池田章政（1836～1903）は13代人吉藩主相良頼之の次男で、慶応4年（1868）岡山藩に慶喜追討の勅命が下り、慶喜の実弟となる9代藩主の茂政が病気を理由に隠居したことで池田本藩の家督を相続した。本書にある「琢堂」は章政の号で、「壬午」は明治15年（1882）を示すことから、章政46歳時の作とされる。



出展資料目録

番号	資料名	員数	年代	整理番号	法量(h×w,cm)
(1) 幕末維新期の岡山藩					
1	北亞米利加水師提督ペリ上陸之図	豎1冊	(未詳)	P21-67	19.0×13.4
2	御書上之写	豎1冊	嘉永6年(1853)8月10日	S1-45-1	26.1×19.4
3	條約書	豎1冊	安政元年(1854)	S4-315	26.8×19.1
4	〔牧野権六郎奉公書〕	豎1冊	明治3年(1870)12月29日	D3-2423	28.4×20.7
5	上総国竹ヶ岡御台場之図	1枚	(未詳)	H6-20-4	54.0×78.6
6	北條陣中并大房台場定 竹ヶ岡台場定	豎1冊	(未詳)	S4-321	28.0×20.3
7	大坂天満陣中定	豎1冊	(未詳)	S4-304	27.8×20.0
8	池田家履歴略記 三編 五(池田家履歴略記続集巻之五)	豎1冊	(嘉永6(1853)～文久3年(1863))	A8-40	23.5×16.6
9	愚存	豎1冊	(慶応2年(1866))2月	S3-66	24.6×16.7
10	〔長州征伐攻防略図〕	1枚	(未詳)	S1-241-2	27.9×49.7
11	長州軍艦庚申丸旗号絵図	1枚	(未詳)	T8-64-6	28.0×41.0
12	〔芸州口戦闘図〕	1枚	(未詳)	S1-241-6	66.9×49.7
13	備中国巡覧大絵図	1鋪	嘉永7年(1854)2月	T1-22	134.0×87.4
14	播州小藩の差出書面之写	豎1冊	(慶応4年(1868)正月～2月)	S4-227	25.1×17.2
15	〔感状〕	1通	明治元年(1868)10月	S4-360-1	40.5×56.4
16	〔津田彦二郎奉公書〕	豎1冊	明治2年(1869)12月晦日	D3-1636	28.0×20.4
17	蝦夷國境輿地全図	1枚	嘉永7年(1854)	T10-26	123.0×99.7
18	〔奥州・箱館絵図〕	1枚	(未詳)	T9-39-1	59.6×96.1
19	五月十一日総攻撃略図	1枚	(明治2年(1869))	T12-21-4	27.7×77.5
20	賊地風聞之俣	1通	(明治2年(1869))2月	T9-39-4	16.2×210.8
(2) 池田茂政と絵図・文書					
21	〔宣旨〕	1通	嘉永3年(1850)12月16日	C4-110-5	36.6×56.8
22	茂政公系図	1枚	(未詳)	C1-92	49.3×65.5
23	〔松民部大輔宛松相模守書状〕	1通	(安政元年(1854)ヵ)2月13日	C8-370-7	17.6×96.8
24	武州忍城郭之図	1枚	(嘉永期ヵ(1848～1853))	T3-4	161.6×158.0
25	忍城内略図	1枚	(嘉永期ヵ(1848～1853))	T3-60	40.2×81.6
26	忍城大手前略図	1枚	(近世後期ヵ)	T3-63	26.2×30.5
27	御養子御隠居御家督一件 下帳	豎1冊	文久3年(1863)	C3-72	24.6×17.3
28	〔達書〕	1通	(文久3年(1863))	C3-78-1	19.5×61.7
29	御賞請御使者御取遣之御次第	横1冊	文久3年(1863)	C3-82	14.2×41.0
30	〔水戸藩漫録〕	横半1冊	文政11～文久2年(1828～1862)	S6-728-(3)	8.4×18.8
31	〔忍藩漫録〕	横半1冊	文化6～安政6年(1809～1859)	S6-728-(2)	8.3×19.0
32	〔幕末漫録〕	横半1冊	元治2～慶応2年(1865～1866)	S6-728-(1)	8.8×19.9
33	忍家家臣住口家法記全	豎1冊	(未詳)	P21-34	27.4×18.4
34	御自筆御建白写	豎1冊	(慶応2年(1866))6月23日	S3-22-1	24.4×16.3
35	〔因州公御書翰〕	1通	(明治元年(1868))2月2日	S1-90-1	17.6×153.6
36	〔願書〕	1通	慶応4年(1868)3月	C3-77-1	39.2×53.5
37	御願書写	1通	(慶応4年(1868))2月	C3-77-3	16.1×252.5
(3) 明治維新と池田家					
38	〔池田慶政写真〕	1枚	(明治期)	C13-392-3	16.5×10.8
39	〔池田章政写真〕	1枚	(明治期)	C13-392-3	16.3×10.5
40	〔明治二年版籍奉還四藩建白写〕	豎1冊	(明治2年(1869)正月20日)	S3-8-(1)	24.5×16.2
41	〔版籍奉還につき行政官達書写〕	1通	明治2年(1869)6月	S6-865-(1)	17.6×49.1
42	岡山藩議事院規則	豎1冊	明治3年(1870)4月	S5-280	23.6×16.2
43	藩制改革條目	豎1冊	明治3年(1870)10月	S5-300	28.0×20.5
44	留帳 上	豎1冊	明治4年(1871)	A1-382	28.0×19.5
45	〔岡山城郭内ノ図〕	1枚	(明治中期)	T3-348-6	27.8×40.0
46	〔岡山城郭内ノ図〕	1枚	(明治中期)	T3-348-7	27.6×39.4
47	備前国岡山内山下并後楽園田全図	1枚	(明治9年(1876)2月)	T7-48	102.4×154.9
48	御本新屋敷御殿向地絵図	1枚	(明治2年(1869)ヵ)	T5-45	117.8×166.5
49	東京市区改正全図	1枚	明治23年(1890)3月10日	T9-58	70.2×93.3
50	明治八乙亥年再度建白三大臣へ差出候写	豎1冊	明治8年(1875)9月6日	S3-11	24.5×16.5
51	備中松山藩御征討記憶之件上申書	豎1冊	明治25年(1892)11月	S4-294	27.8×19.9
52	修史草按巻第一	豎1冊	(明治中期)	A7-52	24.6×17.7
53	史料草按引用書目録	豎1冊	(明治中期)	A7-43	24.7×16.8
【林原美術館】					
林1	陣羽織 池田慶政所用	1領	(江戸時代)	時代衣装88-2	身丈100.1×身幅63.5
林2	一行書「満堂和気生嘉祥」池田章政筆	1幅	明治15年(1882)	書跡124	198.7×43.5

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期	会 場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後樂園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発 (1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発 (2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月3日～11月19日	岡山シティミュージアム
平成30	岡山藩と寺社	2018年11月3日～11月18日	岡山シティミュージアム
令和元	武家と天皇	2019年10月19日～11月4日	岡山シティミュージアム
令和2	岡山・大坂と海の道	2020年10月31日～11月15日	岡山シティミュージアム
令和3	岡山藩と武芸	2021年10月30日～11月14日	岡山シティミュージアム
令和4	岡山城と人々の暮らし	2022年10月22日～11月20日	岡山シティミュージアム
令和5	岡山藩の郡・村と藩政	2023年10月7日～11月5日	岡山シティミュージアム
令和6	江戸時代のはじまりと池田家	2024年11月9日～12月8日	岡山シティミュージアム
令和7	幕末維新期の池田家	2025年10月4日～11月3日	岡山シティミュージアム

記念講演会

年度	記念講演会	記念講演会講師（役職は当時）	期 日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後樂園	岡山大学農学部教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授 高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授 池内敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学大学院教育学研究科教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授 荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井譲治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授 岩淵令治	2016年10月30日
平成29	池田光政の時代	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 三宅正浩	2017年11月12日

年度	記念講演会	記念講演会講師（役職は当時）	期 日
平成30	池田家と国清寺	元岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2018年11月10日
令和元	『大嘗祭』の誕生 ―古代の皇位継承儀礼の生成と変異―	専修大学名誉教授 荒木敏夫	2019年10月26日
令和2	西国の武士、大坂に出張する ―蔵屋敷と大坂城加番―	兵庫県立歴史博物館長 藪田貫	2020年11月7日
令和3	戦国合戦図屏風の世界 ―池田家にかかわる作品を中心に―	茨城大学人文社会科学部人間文化学科教授 高橋修	2021年11月6日
令和4	近世日光山と諸国の東照宮 ―建築とまつり―	筑波大学人文社会系准教授 山澤学	2022年11月12日
令和5	近世の地域社会と藩政 ―宗門改と人の把握―	京都府立大学文学部歴史学科教授 東昇	2023年10月28日
令和6	中世の終わり ―中国地方の戦国時代―	岡山大学学術研究院教育学域教授 村井良介	2024年11月23日
令和7	幕末の岡山藩主 池田茂政のアーカイブズ移動する人々と文書の軌跡	行田市郷土博物館学芸員 澤村怜薫	2025年10月26日

パネルディスカッション

年度	パネルディスカッション	期 日
平成23	国絵図復活 東京大学史料編纂所教授 杉本史子 東京藝術大学大学院准教授 荒井経 電気通信大学准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会会員 青木充子 〔司会〕東京大学大学院准教授 中村雄祐	2011年10月23日

令和7年度企画展 幕末維新期の池田家

発行日／令和7年10月4日

主 催／岡山大学図書館・岡山シティミュージアム

共 催／林原美術館

発 行／岡山大学図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1

印 刷／株式会社アネスト



岡山大学学都基金

—地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する—



「岡山大学学都基金」では、本学における学生支援、教育・研究活動、国際交流及び社会貢献活動の一層の充実を図るとともに、新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学の進展等に資することを目的として、平成27年4月から募金活動を行っております。

現在、大学の運営基盤を支える運営費交付金は毎年減少傾向にあり、本学を取り巻く環境は大変厳しくなっております。卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様には、「岡山大学学都基金」についてご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



リサイクル募金によるご寄付も受付中

お問い合わせ

岡山大学学都基金室(企画部渉外企画課)

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL: 086-251-7009 E-mail: kikin@adm.okayama-u.ac.jp
電話受付: 9:00-17:00(土・日・祝日除く)

寄付の方法

岡山大学学都基金では、オンラインでの決済による寄付を受け付けています。振込による寄付も可能で、パンフレットと振込用紙をお送りします。また、岡山大学学都基金への寄付は、個人・法人を問わず税制上の優遇措置を受けることができます。詳しくは、学都基金のホームページをご覧ください。



学都基金ホームページ

岡山大学学都基金

検索

<https://kikin.soumukikakusoumu.okayama-u.ac.jp/>



池田家文庫資料叢書



岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編 (編集代表：倉地克直)

A5 判 / クロス装・ケース付

岡山大学図書館に所蔵されている池田家文庫の貴重資料のうち、特に学術的価値の高いものを厳選して刊行しています。

池田家文庫資料叢書 3

「御留帳評定書」上・下巻 各19,800円(税込)

【上巻】本文 605頁、解説 19頁 【下巻】本文 558頁

岡山藩の政策決定機関である評定所での審議の様子を記録した、当時の社会状況とそれに対する藩の対応を具体的に知ることができる貴重な資料です。

池田家文庫資料叢書 2

「朝鮮通信使饗応関係資料」上・下巻

【上巻】本文 598頁、解説 22頁 11,000円(税込)

【下巻】本文 749頁、解説 25頁 12,222円(税込)

池田家文庫資料叢書 1

「御留帳御船手」上・下巻 各7,700円(税込)

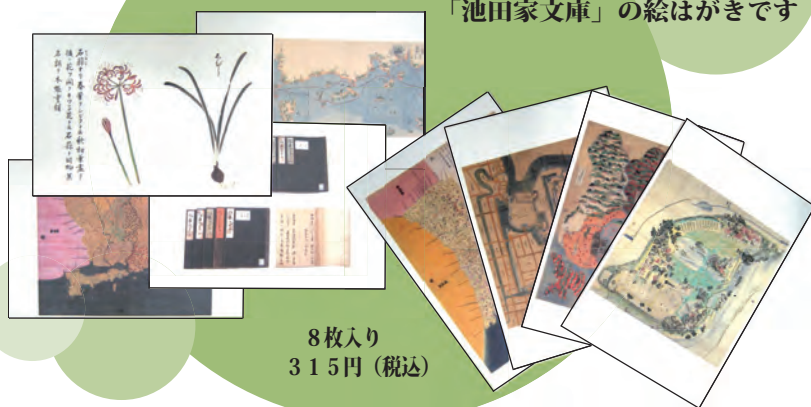
【上巻】本文 627頁、解説 9頁 【下巻】本文 716頁



※電子書籍版(機関向け)が発売されました。詳しくは弊社HP
<https://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>
をご覧ください。

池田家文庫 絵はがき 第一集

岡山大学図書館所蔵の貴重資料
「池田家文庫」の絵はがきです



8枚入り
315円(税込)

※絵はがきは出版会に直接お申し込みください
書店での販売はございません



8枚入り
315円
(税込)

岡山大学資源生物科学研究所
所蔵貴重資料 絵はがき

岡山大学出版会

◇ご購入方法：岡山大学出版会、またはお近くの書店にお問い合わせください
メールでのご注文はこちらへ → okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
Tel : 086-251-7306 Fax : 086-251-7314

岡山大学出版会 |

検索

<https://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>